

# デーリー東北

2022年(令和4年)12月21日(水曜日) (16)

## 種市高生 大学院生と研究

八工大で発表会 津波防災、実験も



防潮林の配置など、八戸工業大での研究成果を発表する種市高の生徒

八戸

津波防災について学ぶ岩手県立種市高(村上智芳校長)海洋開発科3年生の7人が11、12月、八戸工業大で大学院生らと共に、大学の実験装置などを使った研究に取り組んだ。19日、同大で研究成果発表会が開かれ、生徒たちは校外での学びを通して成長したことに自信を深めた様子だった。

双方による高大連携教育活動事業の一環で、5年ほど続いている。

防潮林の配置については、コスト面を踏まえて本数や配列を変えた複数パターンを生徒が考案。水流の減衰を観察した結果を報告した。

防潮堤の高さと浸水範囲の関係は、シミュレーションソフトを活用。被害を食い止めるために高さ15センチ以上が必要とした。一方で、関係者からは「景観として現実的か考慮すべき」という意見が出た。同校の角嶋煌雅さん(17)は「高校以上に大がかりな実験ができ、勉強になることばかりだった」と達成感をかみ締め

た。同大大学院工学研究科の堀合紳弥さん(26)は「高校生がアイデアを出し合っていて良かった。これからも学習内容を子どもに伝え、住民の意識向上を図ってほしい」と生徒の活躍に期待を寄せた。(佐々木祐紀)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。